

# スイカの栽培

JAグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田 孝志

## 【はじめに】

スイカはウリ科の一年生植物で、アフリカが原産地です。高温乾燥を好み、生育適温は昼間 25～30℃、夜間 18～23℃といわれています。夏の暑い時期に直売所などで人気の高いスイカの栽培について簡単に紹介します。

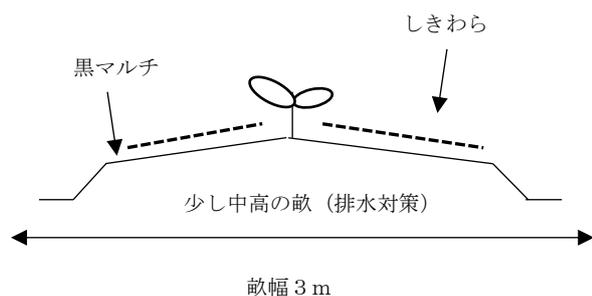
スイカには大玉と小玉がありますが、小玉は果皮が薄いので割れやすく、タンソ病などの病害虫にもやや弱い傾向があります。栽培品種は、大玉では果肉が赤色の「祭りばやし777」や「富士光 TR」、小玉では赤色の「ひとりじめ7」や黄色の「美貴姫」があります。

## 【圃場の準備】

スイカの根は過湿に弱いので、排水性の良い圃場に植えるのがポイントです。石灰資材と基肥を施用後に耕運し、少し中高の畝にします。土壌の適正 pH は 6.0～6.5 です。黒マルチをしておく、除草に加えてタンソ病の軽減にもつながります。トンネル早出し栽培では透明マルチを活用して地温上昇を図り、生育を促進します。

### 【1アール当たりの石灰資材・基肥の例】

苦度入りセルカ 8 kg  
有機配合肥料 (6 : 5 : 5) 10 kg



## 【定植】

トンネル栽培では4月中旬、露地栽培では5月上旬に定植します。露地栽培では寒さ対策として保温キャップなどをします。

株間は小玉で1.2～1.5m、大玉はやや広くし、立ち枯れ病対策のため接ぎ木苗を用います。



トンネル栽培の状況

## 【定植～着果までの管理】

トンネル栽培では気温の上昇とともに隙間を空けるなどして温度調節を行い、5月下旬には除去します。

主枝は10節程度で摘心して側枝を伸ばします。側枝は勢いの揃った8本程度に整理します。通常は1回摘心ですが、2回摘心すると手間がかかりますが、発根が促進され生育後期の樹勢が良くなります。

生育が進むと花が咲きますが、スイカには雄花と雌花があります。家庭菜園では自然な受粉により着果することが多いですが、計画的に収穫する場合は受粉作業を行います。晴天日の朝9時までに、雄花の花粉を雌花に付けて受粉をします。



左：雄花（花の中心に花粉が見える）  
右：雌花（花の下が膨らんでいる）

### 【摘果～鳥獣害対策】

初成り果実は除去し、側枝15～20節に着果させると良い果実が収穫できます。縦に短い果実は除去し、ラグビーボールのような縦長の果実を残します。1株当たり、小玉は8個、大玉は4個がめやすです。

果実がゴルフボール大の頃に着果棒を立て収穫のめやすとします。この時、茎葉の先端付近に少量の追肥をするとその後の生育が促進されます。また、ソフトボール大になった頃に果実の下にスイカマットを敷き、品質向上を図ります。

果実が大きくなると鳥獣害対策をします。カラス対策には圃場の上にテグスを張っておくと被害が軽減され、アライグマ対策では電柵等を設置します。

### 【収穫】

気温により前後しますが、着果棒を立ててから、小玉は25～30日、大玉は40～45日が収穫のめやすとなります。

収穫適期になると果実の肩が少し張ってくるので、試し切りをして適期収穫するよう注意してください。品質低下の主な要因は次のとおりです。

- ×うるみ果(軟果)・・・収穫期の高温
- ×空洞果(たな落ち)・・・収穫遅れ
- ×黄帯果(果肉の黄色い筋)・・・窒素過多

### 【病虫害防除】

害虫では、アブラムシ、ウリハムシ、ハダニ類、アザミウマ類、オオタバコガなどが発生します。病害では、タンソ病、エキ病、ウドンコ病などが発生します。

茎葉が褐変するタンソ病は高温多湿で発生が多くなり、特に注意が必要です。特効薬がないので、雨が続くときには定期的に薬剤散布を行うように努めてください。

### 【主な病虫害と農薬の例】

- アブラムシ・・・モスピラン顆粒水溶剤
- アザミウマ類・・・モスピラン顆粒水溶剤
- オオタバコガ・・・フェニックス顆粒水和剤
- タンソ病・・・ジマンダイセン水和剤、シグナム WDG
- エキ病・・・ジマンダイセン水和剤
- ウドンコ病・・・トリフミン水和剤



タンソ病は最も注意が必要

### 【まとめ】

スイカは夏の高温期に人気のある野菜です。下記のポイントに注意して、美味しいスイカを収穫するよう努めてください。

- 排水性の良い圃場に定植
- 定期的な農薬散布で、タンソ病を防除
- 着果棒を立て、適期収穫に努める